

連載
第2回

教師としての視野を広げる! 世界の日本人学校 マンスリーレポート

グローバルな現代社会。教室には、海外につながる子供たちも少なくありません!
教師としての国際感覚を磨くため、海外の日本人学校のようすを毎月レポートします。

在外教育施設について

海外で日本の教育を受けることのできる教育施設で、「日本人学校」「補習授業校」等があります。現在、保護者の勤務の都合等で海外に滞在している日本の子どもたちは約8万3000人。このうち、約4万1000人が在外教育施設で学んでいます。

岡本 直恵(おかもと なおえ)

2018年4月から中国の青島日本人学校に学校採用教員として勤務。小学部低学年副担任。音楽・図工・中国語会話補助を担当。



1 赴任したきっかけを教えてください

大 学時代から中国人の友人がいたこと、中国語も勉強していたことから、学校採用教員として中国で長く働ける方法を調べているうちに、海外子女教育振興財団の募集について知りました。本校赴任以前から中国各地を旅行しており、青島を訪れた時に、「街並みが美しく、現地の人々が穏やかで住みやすそうな街だな」という印象を持ちました。その後、青島には日本人学校があることを知り、学校のホームページを見て、児童生徒の生き生きとした学校生活の様子や、少人数の特徴を生かした教育課程に関心を覚え、第一期募集に応募して採用されました。



住んでいるマンションの外観

2 学校の概要を教えてください

小 学部合わせて約70名の児童生徒が在籍しています。ほとんどの教科は学年単位で授業を行っていますが、少人数の特徴を生かして、小学部体育、家庭科、中学部体育、音楽、美術、総合的な学習は、複数年合同で実施しています。また毎週水曜日は全校で5つの縦割り班に分かれ、お弁当を食べます。大掃除も縦割りで行うなど、異年齢との日常的な関わりを大切にしています。本年度は学校創立15年目にあたります。創立5年目に建てられた校舎は、地熱や太陽熱を利用した空調設備や温水プールが整っており、環境に配慮されています。



校門には24時間警備員が常駐



海外で働く 学校採用教員Q&A

- Q3 日本人学校や補習授業校はどのように運営されているのですか?
A3 現地の在留邦人団体(日本人会・日本商工会等)が学校運営委員会や理事会を設置し、運営しています。日本政府の援助も受けていますが、いわゆる民間の学校となりますので、入学金や授業料、バス代などの保護者負担経費がかかります。
- Q4 日本人学校や補習授業校の授業料はどのくらい?
A4 学校によって異なりますが、年間で日本人学校は平均65万円程度、補習授業校は平均10万円程度です。

海外子女教育振興財団

海外子女教育振興財団(Japan Overseas Educational Services=JOES)は、1971年に外務省及び文部省(現文部科学省)の共管の財団法人として設立され、2011年には内閣府の認可を受け公益財団法人となりました。設立以来、海外子女・帰国子女教育の振興を図るため幅広い事業を実施しており、学校採用教員の雇用支援もその一環として行っています。

日本人学校等学校採用教員雇用支援、「学校採用教員レポート」などについて、詳しくはこちらから<http://www.joes.or.jp>



3 この国の学校ならではの!という特徴は何ですか?

現 地の小・中学校とお互いの学校を行き来して交流を行ったり、校外学習では企業や工場・農場を訪問したりして、日本と中国のつながりを学習しています。全校遠足ではオリンピック記念公園に出かけて現地の人々と挨拶を交わしながら広大な敷地を散策し、小6の修学旅行は世界複合遺産に登録されている泰山に登り、中学部修学旅行は西安で中国の歴史を学びます。週1回の中国語の授業はコース別に分かれ、自分の力に合った学習をしています。また、本校の伝統的な取組として和太鼓の演奏があり、現地校との交流活動などで披露しています。



現地校交流での音楽の授業(低学年)

4 学校で勤務した感想を教えてください

定 期的に行われる音楽集会では、小1~中3までが心を合わせて歌声を響かせます。この全校合唱は青島日本人学校ならではの取組であり、音楽担当としてやりがいを感じる瞬間の一つです。環境面では大気汚染の心配もありましたが、普通教室、体育館、特別教室をはじめとする校内のいたるところに空気清浄機が設置されており、室内環境は大変良好です。家庭的な雰囲気の中、全国各地から来られた熱意あふれる先生方から多くのことを学び、刺激を受ける毎日です。



中国文化交流(PTA主催)

5 教え子が帰国したとき、日本の先生方に伝えたい伝達事項は何ですか?

本 校の児童生徒は素直で明るく、学習にもスポーツにも一生懸命取り組みます。また、現地校交流や校外学習などで、現地の方々と接する児童生徒の姿から、多様性を受け入れられる素養を強く感じます。ただ、青島で日頃触れ合う日本人が家族と教員に限定されるため、関係が密で、ほぼ全員が自分の味方であることから、帰国した時に日本の子供たちの文化(思春期の子供独特の世界)になじめるかが心配です。帰国した児童生徒の様子を見守っていただき、ご支援いただければと思います。



縦割り班による「ともだちランチ」